

筑紫女学園大学

みなみ ひろふみ
南博文

筑紫女学園大学 学長



中川正法前学長の任期満了に伴い、2023年6月20日付で南博文学長が就任した。

南学長は1957年生まれ。1979年広島大学教育学部心理学卒業。同大学院を経て、1985年米國クラーク大学院博士過程を修了(Ph.D)。

1986年に広島大学教育学部助手、同講師、助教授を経て、1994年より九州大学教育学部助教授、1998年より大学院人間環境学研究所教授。教育学部長および統合新領域学府長を歴任。国際活動としてニューヨーク市立大学客員教授およびブルブ

ライト研究員に従事。

専門は、環境心理学。人間・環境学会会長(2004年〜2006年)などを務める。著書に『子どもたちの「居場所」と対人的世界の現在』(九州大学出版会)(共編著)、『環境心理学の新しいかたち』(誠信書房)などがある。

本学は、仏教(浄土真宗)に基盤を置き、女性の自律支援を建学の精神に持つ地域密着型の教育機関として定評を得てきた。その伝統を受け継ぎつつ新しい時代に「生き延びる」教育の進化形の実現に着手している。

聖学院大学

こいけ しげこ
小池茂子

学校法人聖学院 理事長
聖学院大学 学長



清水正之理事長・学長の任期満了に伴い、2023年4月1日付で、小池茂子副学長が新理事長・学長に就任した。

小池学長は1962年生まれ。1987年3月青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了、1993年3月青山学院大学文学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得済退学。

2006年4月聖学院大学基礎総合教育部講師として着任後、2008年4月人間福祉学部へ異動し、2018年4月より人文学部教授。2018〜2019年度学長補佐、2020年度副学

長、人文学部長(秋学期)、2021年度副学長。2022年度副学長、人文学部長兼文化総合学研究科長。

専門は、社会教育学、生涯学習論、成人教育学。

聖学院大学は、学校法人聖学院120年の伝統の下、今年度創立35周年を迎える。埼玉県にあるキリスト教主義大学として、建学の精神の下に「一人を愛し、一人を育む。」というタグラインを全教職員が共有し、共感力・対話力・実践力を有し、専門性とコミュニケーション力をもつて社会に貢献する人間の育成を目指していく。

新井 一 (あらいはじめ)

順天堂大学学長。'79順天堂大学医学部卒業、博士(医学)、'02より同大学医学部脳神経外科教授、医学部附属順天堂医院院長、医学部長を経て、'16より現職。

伊藤 公平 (いとうこうへい)

慶應義塾長。'89慶應義塾大学理工学部卒業、'94カリフォルニア大学バークレー校Ph.D。'21より現職。専門は固体物理、量子コンピュータ。

小林 光広 (こばやしみつひろ)

学校法人法政大学総務部庶務課課長。

城山 大樹 (じょうやまだいき)

学校法人関西学院総務部総務課課長。関西学院大学法学部卒業。'05学校法人関西学院入職。社会学部事務室、高大接続センターを経て、'23より現職。

井上 博司 (いのうえひろし)

熊本学園大学総務部長。熊本商科大学(現・熊本学園大学)経済学部卒業。'91熊本商科大学入職、'21より現職。

飯田 昌美 (いいたまさみ)

三重大学安全・防災・危機管理室災害対策

コーディネーター。防衛大学校を卒業後、陸上自衛隊に勤務。定年後、三重大学防災室長を経て、'22より現職。

大谷 奈緒子 (おおたになおこ)

東洋大学社会学部教授。'97東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。修士(社会学)。'16より現職。共著『新放送論』など。

早川 和宏 (はやかわかずひろ)

東洋大学副学長、学生部長、法学部教授、弁護士。'00成城大学大学院法学研究科博士課程後期単位取得退学。

國見 憲吾 (くにみけんご)

学校法人近畿大学法人本部総務部主任。'11近畿大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。修士(経済学)。'12学校法人近畿大学入職、'20から現職。

村川 千鶴 (むらかわちづる)

学校法人神奈川大学みなとみらい統括部長。学長室長、附属中・高等学校事務長、平塚事務部長を経て、'234月より現職。

村松 航平 (むらまつこうへい)

東海大学学長室総務担当。'18東海大学国

際文化学部地域創造学科卒業。民間企業での勤務を経て、'21より現職。

末木 由紀 (すえきゆき)

成城大学学長室主任。

高橋 悠 (たかはしゆう)

松山大学生生活協同組合専務理事。愛媛大学工学部環境建設工学科卒業。'04松山大学生生活協同組合入協。'23より現職。

石川 順之 (いしかわじゆんし)

学校法人駒澤大学理事長。同法人監事を経て、'22より現職。駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻修士課程修了。京都市詩仙堂丈山寺住職。

茂木 えり (もてきえり)

中央大学学事・社会連携課副課長(父母連絡会担当)。'05中央大学文学部卒業。'05学校法人中央大学入職。'21より現職。

井上 拓也 (いのうえたくや)

立命館大学校友・父母課課長。

長谷川 紹子 (はせがわしゅうこ)

神戸女学院大学大学事務長。'22より現職。

阿川修三(あがわしゅうぞう)

文教大学父母と教職員の会事務局長。文教大学文学部教授。東京教育大学文学部卒業。東京都立大学人文科学研究科修士課程修了。文学修士。専門は近代日中文化交流史。

島菌進(しまのすすむ)

大正大学客員教授、上智大学グリーンフケア研究所客員所員、東京大学名誉教授、NPO東京自由大学学長。東京大学大学院博士課程単位取得退学。専門は近代日本宗教史、宗教理論など。

竹内光子(たけうちみつこ)

日本女子大学学術研究員(12~20、23)。設計事務所主宰(19~)。同大学大学院修士課程修了後、設計事務所勤務。23同大学院人間生活学研究科博士課程単位取得退学。

山本直子(やまもとなおこ)

東洋英和女学院大学国際社会学部専任講師。16慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程単位取得退学、博士(社会学)。22より現職。

李燕(リエン)

立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部学部長。京都大学大学院工学研究科博士課程修了。立命館アジア太平洋大学ア

シア太平洋学部学部長、副学長を経て現職。

赤江達也(あかえ たつや)

関西学院大学社会学部教授、学院史編纂室長。筑波大学大学院博士課程社会学研究科修了。博士(社会学)。主著『紙上の教会』と日本近代(岩波書店)。

尾崎寛直(おさきひろなお)

東京経済大学経済学部教授。04東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程単位取得満期退学。専門は環境政策、環境福祉、コミュニティ福祉他。

外池大亮(とのおいけだいら)

97早稲田大学社会学部卒業後、Jリーグのベルマーレ平塚に加入。07引退後、電通、スカパー!に勤務。18早稲田大学ア式蹴球部監督に就任。23より横浜マリノス(株)経営企画部。

外川智恵(とがわちえ)

大正大学表現学部教授。同大学卒業。カリフォルニア臨床心理大学院修士課程修了。山梨放送を経てフリー。NIT技術ジャーナル巻頭インタビュー、新語・流行語大賞の総司会など。

会長の動き

- 9月12日(火) 第5回常務理事会、第5回理事会に出席
- 10月3日(火) 第6回常務理事会に出席
盛山正仁文部科学大臣
及び青山周平文部科学
副大臣と安江伸夫政務
官を訪問
- 10月18日(水)・23日(月) 文教関係国会議員に令和6年度予算・税制改正を要望
- 10月24日(火) 第7回常務理事会、第6回理事会に出席



開催報告

- 8月31日(木)～9月1日(金) 令和5年度教学担当理事者会議(ハイブリッド開催)
- 9月4日(月) リットド開催
- 令和5年度理事長会議(ハイブリッド開催)
- 9月7日(木)～9月8日(金) 令和5年度学生支援研究会議(対面開催)

- 9月15日(金)～10月31日(火) 令和5年度第1回国の補助金等に関する説明会(オンデマンド配信)
- 10月25日(水) 令和5年度国際連携委員会シンポジウム(ハイブリッド開催)

- 10月27日(金) 私学法改正 法解釈および制度設計に関する質問会(オンライン開催)
- 10月30日(月) 「大学・高専機能強化支援事業」第2回公募に向けた説明会(ハイブリッド開催)

- 10月31日(火) 私大連フォーラム2023「未来の学びへの羅針盤 生成系AIとデジタル技術が切り拓く大学教育の新時代」(ハイブリッド開催)

▼ 各資料は、下記の私大連Webサイトを
ご覧ください。

私大連Webサイトにて
各種活動に関する情報を公開
<https://www.shidairen.or.jp/>



座談会 「大学学生寮の現在と未来」

特集 「フェアトレード活動を通じた持続可能な未来への取り組み」

小特集 「デジタル社会における学生証の今」

だいがくのたから
九州産業大学

大学点描
跡見学園女子大学

クローズアップ・インタビュー
澤田 瞳子さん(小説家)

編集後記

◆大学の学生食堂といえば「安くお腹いっぱい食べることができる」という印象を持つ人が多いのではないだろうか。しかし、年間営業日数や提供時間の集中など経営・運営面の課題は多い。更に未曾有のコロナ禍や急激な物価高、人材確保の困難さなど外部環境の変化に対する創意工夫やアイデアが求められている。このような状況と対照的に、健康志向で多様な豊富なメニューやお洒落な空間、便利で早く利用できるシステムなど学生の学生食堂に対する期待度は高まっている。

本特集では学内外の資源を有効活用し、学生や地域などのコミュニティを巻き込み、従来の学生食堂の枠を超えて魅力度向上を実践する事例を取り上げた。大学運営上、福利厚生的要素が強い学生食堂が、起業やアイデアの実践など「学生の学びの場」や「産学・地域連携の場」に発展しているのが印象的であった。今後、学生食堂が更に学生の支えとなり、充実した大学生活の提供の場になることを楽しみにしている。〈広報・情報委員会大学時報分科会委員・関西学院広報室企画広報課課長 中谷良規〉

◆春学期、「父母懇談会」出張を担当し、2コース5都市にお邪魔した。大学の近況や学生生活に関する講演を行い、直接、父母から質問を受け、懇親会で交流する機会を得たのであるが、どの会場でも、学業や日常生活はもちろん、サークルや部活、留学や就活など、関心が寄せられるトピックスの多様性に驚かされた。

印象に残ったのは、懇親会や地域支部の活動に楽しそうに参加されている様子である。父母等組織ネットワークの活発な活動の背景には、子どものためだけでなく、父母自身が楽しんで活動に参加することがあるのではないかと感じた。

学期期間中の週末に各都市をめぐる出張は、正直、身体的には厳しい。しかし、直接各地で受け取った「声」や雰囲気は、教員としてはもちろん、大学生の子どもを持つ父母の一人としても、大いに共感、納得できるものであった。そんな「声」を意識しつつ、目の前の学生にどのように向かい合うか、こちらも楽しみながら考えたい。〈広報・情報委員会大学時報分科会委員・中央大学文学部教授 松田美佐〉

◆関東大震災から100年―近年、日本は歴史に残るような大災害に見舞われて来たことを痛感する。本号の座談会では、各大学が経験し、その経験を生かした今後への対策について、実務担当者の皆様から、多くのご示唆をいただいた。

インタビューでは、様々な形でサッカーと向き合ってこられた外池大亮さんのお話を伺った。学生時代から俯瞰的な目でサッカーと向き合い、ポジションを意識してこられた姿勢が印象に残る。そしてこのことが、現在の職場において目指している一つの役割、フリーマンへとつながっているように感じられた。

どの組織、仕事においても、果たすべき役割の範囲や予想を超えたことへの対応が求められる場面に遭遇する時がある。災害とスポーツは異なる分野ではあるが、思いがけない局面に向き合う瞬間があることは違いない。その時どのように考え、判断し、動くことができるのか―本号がそのことを考える機会となれば幸いである。〈日本私立大学連盟事務局 加賀崎 奈美〉

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (123大学 令和5年11月20日現在)

愛知大学	関西大学	南山大学	園田学園女子大学
亜細亜大学	関西学院大学	日本大学	大正大学
青山学院大学	関東学園大学	日本女子大学	拓殖大学
跡見学園女子大学	関東学院大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
梅花女子大学	慶應義塾大学	大阪学院大学	東邦大学
文教大学	恵泉女学園大学	大阪医科薬科大学	東北学院大学
筑紫女学園大学	敬和学園大学	大阪女学院大学	東北公益文科大学
中京大学	神戸女学院大学	大谷大学	東海大学
中央大学	神戸海星女子学院大学	追手門学院大学	常磐大学
大東文化大学	皇學館大学	立教大学	東京医療保健大学
獨協大学	國學院大学	立正大学	東京女子大学
獨協医科大学	国際武道大学	立命館大学	東京女子医科大学
姫路獨協大学	国際基督教大学	立命館アジア太平洋大学	東京経済大学
同志社大学	駒澤大学	龍谷大学	東京国際大学
同志社女子大学	甲南大学	流通科学大学	東京農業大学
フェリス女学院大学	久留米大学	流通経済大学	東京情報大学
福岡大学	共立女子大学	西武文理大学	東京歯科大学
福岡女学院大学	京都産業大学	聖学院大学	東洋大学
福岡女学院看護大学	京都精華大学	成城大学	東洋英和女学院大学
学習院大学	京都橘大学	聖カタリナ大学	東洋学園大学
学習院女子大学	九州産業大学	成蹊大学	豊田工業大学
白鷗大学	松山大学	西南学院大学	津田塾大学
阪南大学	松山東雲女子大学	聖路加国際大学	和光大学
広島女学院大学	明治大学	清泉女子大学	早稲田大学
広島修道大学	明治学院大学	聖心女子大学	山梨英和大学
法政大学	宮城学院女子大学	専修大学	四日市大学
実践女子大学	桃山学院大学	石巻専修大学	四日市看護医療大学
上智大学	桃山学院教育大学	芝浦工業大学	
城西大学	武蔵大学	白百合女子大学	
城西国際大学	武蔵野大学	仙台白百合女子大学	
順天堂大学	武蔵野美術大学	昭和女子大学	
金沢星稜大学	名古屋学院大学	創価大学	

大学時報

University Current Review

2023/11月号

第72巻413号(通巻426号)

令和5年11月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 森康俊(関西学院大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館

電話 03-3262-8672 FAX 03-3262-4363

<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル3階

〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9

KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)

須藤智徳(法政大学多摩事務課課長)

中山映(上智大学学事局学事センター事務長)

依藤康正(関西大学総合企画室広報課課長)

中谷良規(関西学院広報室企画広報課課長)

塩原良和(慶應義塾大学法学部教授)

野見山智道(明治大学経営企画部広報課長)

長野香(立教学院広報室長)

立岩健一(立命館大学総合企画部広報課長)

山田健太(専修大学文学部教授)

高橋慈海(大正大学ブランディングセンター長、広報部部长)

大谷奈緒子(東洋大学社会学部教授)

五十嵐俊也(津田塾大学経営企画課課長)

鈴木宏隆(早稲田大学総長室募金担当部長)

齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)

加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)

吉田匡孝(日本私立大学連盟事務局)

